令和8年度全国学力・学習状況調査結果の概要

伊達市教育委員会

「学習」に関する調査結果

調査日　　令和8年4月23日（木）
調査対象　小学校6年384名、 中学校3年347名
調査教科　小学校：国語、算数　中学校：国語、数学、英語

【平均正答率（全国との比較）】

	小学校		中学校		
教科	国語	算数	国語	数学	英語
全国平均との比較	上回っている	上回っている	下回っている	下回っている	下回っている

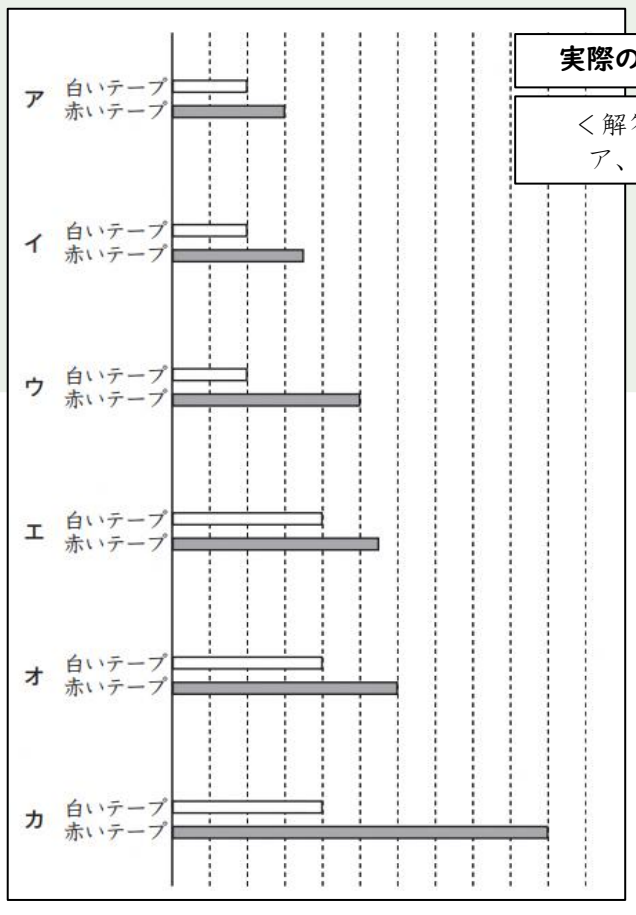
【国語】

小学校	中学校
【育っている力】 「書くこと」 ◎引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力	【育っている力】 「話すこと・聞くこと」 ◎互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめる力
【育てたい力】 「読むこと」 ▲文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる力	【育てたい力】 「読むこと」 ▲文章を読んで理解したことに基づいて、知識と経験を結び付けながら考えを深める力

【算数・数学】

小学校	中学校
【育っている力】 「図形」 ◎日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できる力	【育っている力】 「データの活用」 ◎累積度数の意味を理解する力
【育てたい力】 「変化と関係」 ▲基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができる力	【育てたい力】 「関数」 ▲数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる力

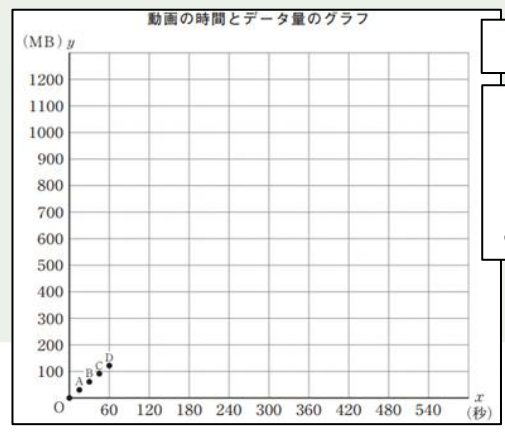
赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図はどれですか。
下のアからカまでの中から２つ選んで、その記号を書きましょう。



実際の問題

＜解答＞
ア、オ

動画の時間とデータ量のグラフにおいて、原点Ｏから点Ｄまでの点が一直線上にあるとし、動画の時間を長くしても、動画の時間とデータ量の値の組を座標とする点が同じ直線状にあると考えます。このとき、データ量が１０００ＭＢになるときの動画の時間はおよそ難病になるかを求める方法を、ｘ座標やｙ座標、ｘの値やｙの値など、ｘやｙを使って説明しなさい。ただし、実際におよそ何秒かをもとめる必要はありません。



実際の問題

＜解答例＞
原点Ｏから点Ｄをもとに、直線のグラフをかき、ｙ座標が１０００のときのｘ座標を読む。

【英語】

中学校
【育っている力】 「読むこと」 ◎社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書く力
【育てたい力】 「書くこと」 ▲日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書く力

児童生徒質問紙より

学習に関する内容で、本市の児童生徒の割合が、全国比を上回った質問【強み】

◎５年生（中学校１、２年生）までに受けた授業では、国語の授業で、先生は、あなたの学習がうまくできていないところはどこか伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれましたか。

◎５年生（中学校１、２年生）までに受けた授業では、算数（数学）の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていましたか。

学力向上のために大切にしたい学習

≪国語≫
・　「読むこと」を通して、自分が考えたことを友達に伝えたり、伝えながら考えたことを書いたりするなど、「読む」「話す・聞く」「書く」活動をバランスよく取り入れ、自分の考えが深まるよさを実感できる学習

≪算数≫
・　何が「もとにする量（基準量）なのかを問題文から読み取り、数直線や関係図を使って表現することで、考えが整理されるよさに気付く学習

≪数学≫
・　式やグラフが現実の世界で何を意味しているのかを言語化したり、ＩＣＴ機器を活用して、実際に自分でグラフを作ったりしながら、式やグラフも相手に伝えるための表現方法であるという意識を育てる学習

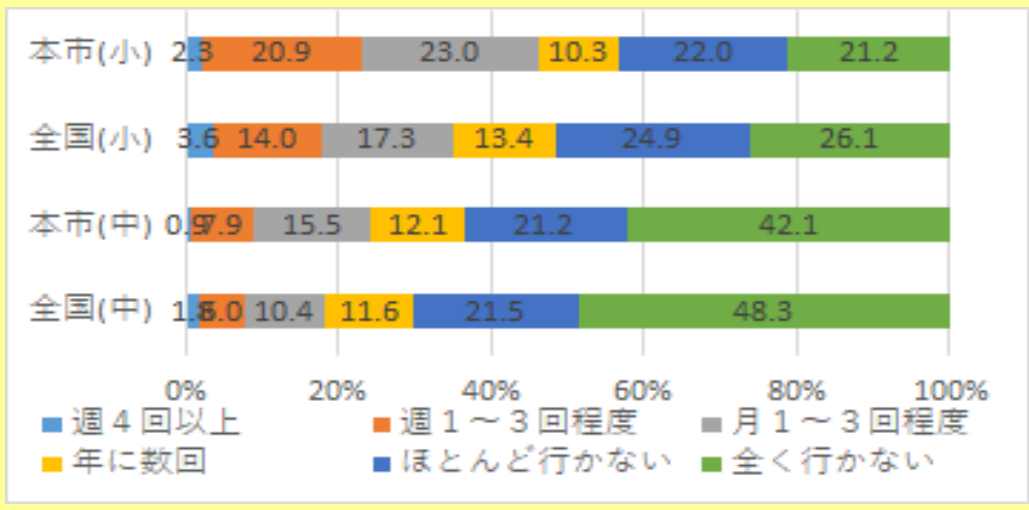
≪英語≫
・　「誰に」「何のために」「何を伝えるのか」（目的・場面・状況）を明確にしながら書く活動を取り入れた学習

「生活・学習」に関する調査結果

調査日　　令和８年４月２４日（金）～５月８日（金）
調査対象　小学校６年３８７名、中学校３年３３０名
調査内容　小学校：児童質問紙、中学校：生徒質問紙
※小学校・中学校ともにオンラインで実施

【小学校・中学校】

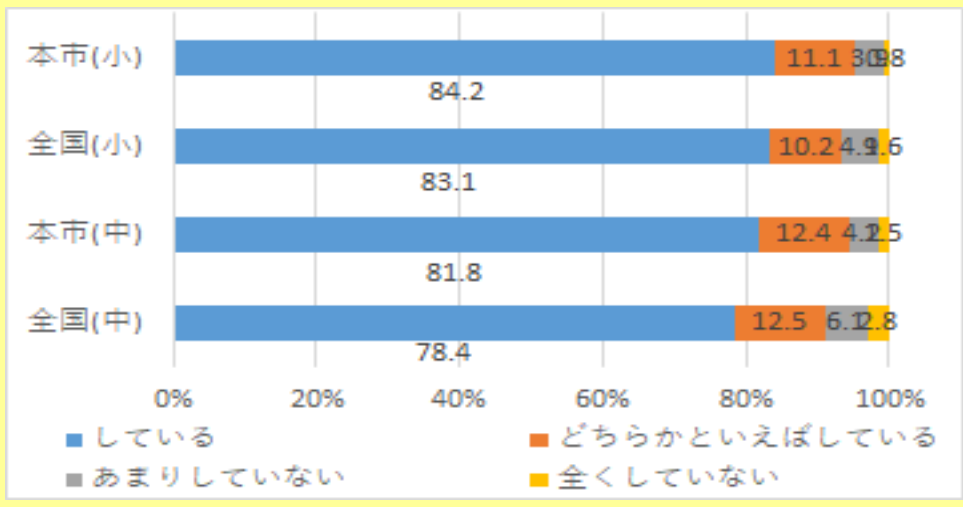
Q　昼休みや放課後に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室にどれくらい行きますか？



「週４回以上」、「週１～３回程度」、「月１～３回程度」といった割合が、小学校、中学校ともに全国の割合を大きく上回っています。
　読む力は、あらゆる学習を支える基盤となります。今後も保護者の皆様のご協力をいただきながら、学校においても児童生徒が読書に親しめる環境づくりを進めていきます。

【小学校・中学校】

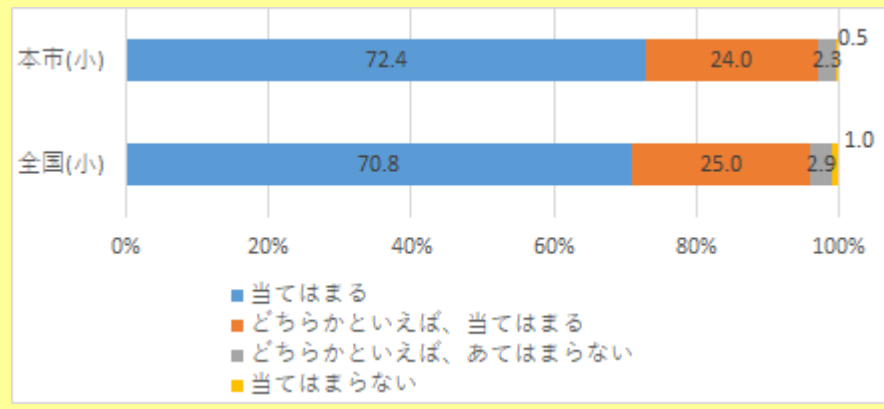
Q　朝食を毎日食べていますか？



「朝食を毎日食べる」といった基本的生活習慣が身に付いている児童生徒の割合は市全体の８割を超えています。
　学力向上のためには、睡眠時間の確保、健康な体を育てる食生活、規則正しい生活などの生活習慣を確立することが大切です。基本的生活習慣が身についていると、集中力や持久力がつき、自分の力を十分に発揮できるようになります。

【小学校】

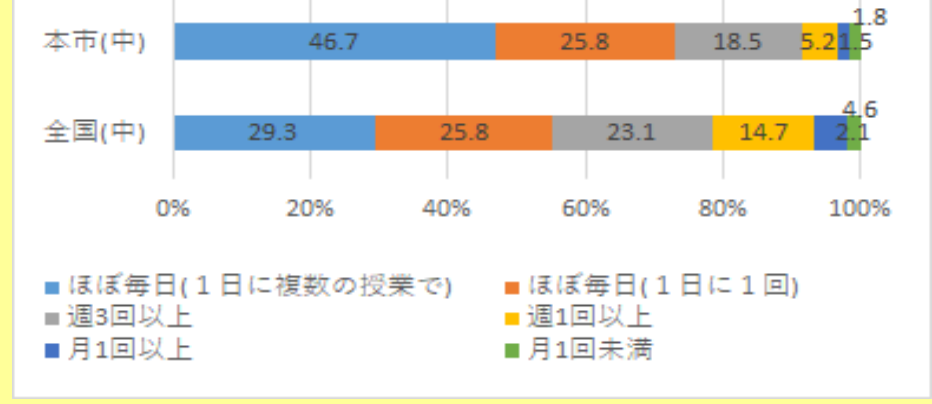
Q　人の役に立つ人間になりたいと思いますか？



「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」といった児童の割合は市全体の９割を超えています。
　この強みを生かし、授業では、地域の課題や生活に関わるテーマを取り上げるなど、学んだ知識や技能を実際に使って解決する活動を行います。また、グループで話し合い発表することで協力する力や表現力を育てながら、学ぶ意欲を高めていきます。

【中学校】

Q　１、２年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用しましたか？



「ほぼ毎日（１日に複数の授業で活用）」、「ほぼ毎日（１日に１回）」、「週３回」といった生徒の割合が市全体の９割を超えています。
　この強みを生かし、今後は、教育活動全体を通してＩＣＴ機器を活用し、情報の収集や整理とともに、効果的なアウトプットの手段として児童生徒がＩＣＴ機器を使用する場面を意図的に設定していきます。

【「安心して意見を言い合える学級の雰囲気」を目指して!】



　本市の児童生徒は、全国と比較して「あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか？」「自分にはよいところがあると思いますか？」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合が低い傾向にあります。
　本市の学校では、「安心して意見を言い合える学級の雰囲気」を目指して学級づくりを進めています。児童生徒が、自分と違う意見を「学びの機会」として捉え、互いの多様性を認め合えるような授業を実践していきます。また、児童生徒が主体的に課題に挑戦してみることや、多様な他者と協働して創意工夫することの重要性に気付き、「自分も一人の人間として大切にされている」と実感できるような集団作りを進めていきます。